

社会福祉法人栗駒峰寿会定款

第 1 章 総 則

(目的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

(1) 第一種社会福祉事業

(イ) 特別養護老人ホームの設置経営

(ロ) 軽費老人ホーム「ケアハウス」の設置経営

(2) 第二種社会福祉事業

(イ) 老人デイサービスセンターの設置経営

(ロ) 老人短期入所事業

(ハ) 認知症対応型老人共同生活援助事業の経営

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人栗駒峰寿会という。

(経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を、宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎三島255番地に置く。

第 2 章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

2 評議員選任・解任委員会は、監事2名、職員1名、外部委員1名の合計4名で構成する。

3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。

- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員が出席し、かつ、外部委員が賛成することを要する。

(評議員の資格)

第7条 社会福祉法第40条第4項及び第5項を遵守するとともに、この法人の評議員のうちには、評議員のいずれか1人及びその親族その他特殊の関係がある者(租税特別措置法施行令第25条の17第6項第1号に規定するものをいう。以下同じ。)の合計数が、評議員総数(現在数)の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

(評議員の任期)

第8条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した評議員の後任として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
- 3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第9条 評議員に対して、各年度の総額が140,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

- 2 評議員には、費用を弁償することができる。

第3章 評議員会

(構成)

第10条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

- 2 評議員会に議長を置き、議長は当該評議員会に出席した評議員のうちから選定する。

(権限)

第11条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類(貸借対照表及び収支計算書)及び財産目録の承認

- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) 事業計画及び収支予算
- (10) 臨機の措置（予算外の新たな義務の負担及び権利の放棄）
- (11) 公益事業に関する重要な事項
- (12) 解散
- (13) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項（開催）

第12条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後3ヶ月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

（招集）

第13条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

（決議）

第14条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第16条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

- 4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

（議事録）

第15条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

第 4 章 役員及び職員

(役員の数)

第16条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 6名
- (2) 監事 2名

- 2 理事のうち1名を理事長とする。

(役員を選任)

第17条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長は、理事会の決議によって理事のうちから選定する。

(役員資格)

第18条 社会福祉法第44条第6項を遵守するとともに、この法人の理事のうちには、理事のいずれか1人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数(現在数)の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

- 2 社会福祉法第44条第7項を遵守するとともに、この法人の監事には、この法人の理事(その親族その他特殊の関係がある者を含む。)及び評議員(その親族その他特殊の関係がある者を含む。)並びに、この法人の職員が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係がある者であってはならない。

(理事の職務及び権限)

第19条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
- 3 理事長は、毎会計年度に4ヶ月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第20条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況を調査することができる。

(役員任期)

第21条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 任期の満了前に退任した理事又は監事の後任として選任された理事又は監事の任期は、退任した理事又は監事の任期の満了する時までとする。

3 理事又は監事は、第 16 条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第 22 条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第 23 条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

2 理事又は監事には、費用を弁償することができる。

(責任免除)

第 24 条 理事、監事が任務を怠ったことによって生じた損害について、社会福祉法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意で、かつ、重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、社会福祉法第 45 条の 22 の 2 において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 113 条第 1 項の規定により免除することができる額を限度として理事会の決議によって免除することができる。

(職員)

第 25 条 この法人に、職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員(以下「施設長等」という。)は、理事会において、選任及び解任する。

3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

第 5 章 理事会

(構成)

第 26 条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

2 理事会に議長を置き、議長は当該理事会に出席した理事のうちから選定する。

(権限)

第 27 条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 理事長の選定及び解職

(招集)

第 28 条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第 29 条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第 30 条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 当該理事会に出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

第 6 章 資産及び会計

(資産の区分)

第 31 条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産及び公益事業用財産の 3 種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

(1) 現金 1, 0 0 0 万円

(2) 建物

宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎三島 2 5 5 番地

鉄筋コンクリート造亜鉛メッキ鋼板葺平家建及び鉄骨造平家建

特別養護老人ホーム愛光園（2 2 3 8. 6 2 m²）

(3) 建物

宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎三島 2 5 5 番地

鉄筋コンクリート造 平家建

ケアハウス栗駒「愛」（7 0 2. 4 5 m²）

(4) 建物

宮城県栗原市栗駒八幡清水沢 6 1 番地 1

木造合金メッキ鋼板ぶき平家建

サービス付き高齢者向け住宅「八幡の家」・八幡デイサービスセンター

(998.89㎡)のうちデイサービスセンター部分(198.80㎡)

(5) 建物

宮城県栗原市栗駒八幡清水沢66番地1
木造合金メッキ鋼板ぶき平家建
グループホーム清水沢(567.47㎡)

(6) 建物

宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎三島255番地
鉄筋コンクリート造 平家建
栗駒デイサービスセンター(446.94㎡)

(7) 土地

宮城県栗原市栗駒八幡清水沢61番1(3773.89㎡)

(8) 土地

宮城県栗原市栗駒八幡清水沢66番1(2488.37㎡)

3 その他財産は、基本財産及び公益事業用財産以外の財産とする。

4 公益事業用財産は、第40条に掲げる公益を目的とする事業の用に供する財産とする。

5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第32条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を得て、栗原市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、栗原市長の承認は必要としない。

(1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合

(2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資(独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。)に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合(協調融資に係る担保に限る。)

(資産の管理)

第33条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

3 前項の規定にかかわらず、基本財産以外の資産の現金の場合については、理事会の議決を経て、株式に換えて保管することができる。

(事業計画及び収支予算)

第34条 この法人の事業計画書及び収支予算については、毎会計年度開始の日

の前日までに、理事長において作成し、理事総数の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第35条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

(1) 事業報告

(2) 事業報告の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)

(5) 貸借対照表及び収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)の附属明細書

(6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(1) 監査報告

(2) 理事及び監事並びに評議員の名簿

(3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類

(4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第36条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第37条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第38条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意及び評議員会の承認がなければならない。

(保有する株式に係る議決権の行使)

第 39 条 この法人が保有する株式（出資）について、その株式（出資）に係る議決を行使する場合には、あらかじめ理事会において理事総数（現在数）の 3 分の 2 以上の承認を要する。

第 7 章 公益を目的とする事業

（種別）

第 40 条 この法人は、社会福祉法第 26 条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

- （1）居宅介護支援事業
- （2）地域包括支援センターの設置経営
- （3）指定介護予防支援事業
- （4）サービス付き高齢者向け住宅の設置経営

2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の 3 分の 2 以上の同意及び評議員会の承認を得なければならない。

（剰余金が出た場合の処分）

第 41 条 前条の規定によって行う事業から剰余金が生じた場合は、この法人の行う社会福祉事業又は公益事業に充てるものとする。

第 8 章 解散

（解散）

第 42 条 この法人は、社会福祉法第 46 条第 1 項第 1 号及び第 3 号から第 6 号までの解散事由により解散する。

（残余財産の帰属）

第 43 条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

第 9 章 定款の変更

（定款の変更）

第 44 条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、栗原市長の認可（社会福祉法第 45 条の 36 第 2 項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を栗原市長に届け出なければならない。

第 10 章 公告の方法その他

(公告の方法)

第 45 条 この法人の公告は、社会福祉法人栗駒峰寿会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子広告に掲載して行ふ。

(施行細則)

第 46 条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

1 この法人の設立当初の役員は次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

| | |
|---------|---------|
| 理 事 長 | 渡 邊 泰 |
| 副 理 事 長 | 小 林 ふ き |
| 理 事 | 渡 邊 由美子 |
| 〃 | 佐 藤 清 男 |
| 〃 | 渡 邊 義 郎 |
| 〃 | 千 葉 毅 |
| 〃 | 山 上 文 明 |
| 〃 | 菅 原 高 寿 |
| 〃 | 佐 竹 虎 男 |
| 監 事 | 徳 能 一 男 |
| 〃 | 佐 藤 玉 芳 |

- 2 この定款は、平成 3 年 6 月 26 日から施行する。
この定款は、平成 5 年 1 月 5 日から施行する。
この定款は、平成 6 年 1 月 17 日から施行する。
この定款は、平成 9 年 5 月 27 日から施行する。
この定款は、平成 10 年 3 月 25 日から施行する。
この定款は、平成 10 年 5 月 27 日から施行する。
この定款は、平成 12 年 3 月 21 日から施行する。
この定款は、平成 13 年 3 月 19 日から施行する。
この定款は、平成 13 年 7 月 18 日から施行する。
この定款は、平成 15 年 3 月 19 日から施行する。
この定款は、平成 15 年 7 月 22 日から施行する。
この定款は、平成 16 年 2 月 2 日から施行する。
この定款は、平成 18 年 7 月 26 日から施行する。
この定款は、平成 19 年 8 月 20 日から施行する。

この定款は、平成 20 年 7 月 4 日から施行する。

この定款は、平成 24 年 8 月 3 日から施行する。

この定款は、平成 25 年 7 月 8 日から施行する。

この定款は、平成 27 年 7 月 16 日から施行する。

この定款は、平成 27 年 12 月 26 日から施行する。

この定款は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

(栗原市長認可日：平成 29 年 1 月 30 日)

この定款は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

(栗原市長認可日：令和 4 年 4 月 1 日)

社会福祉法人栗駒峰寿会定款施行細則

(目的)

第1条 この細則は、定款第46条の規定に基づき、本法人の業務運営に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(理事長の専決)

第2条 定款第27条ただし書に規定する理事長が専決することができる日常の軽易な業務は、次のとおりとする。

- (1) 施設の長他の重要な職員以外の職員の任免。
- (2) 職員の日常の労務管理・福利厚生に関すること。
- (3) 債権の免除・効力の変更のうち、当該処分が法人に有利であると認められるもの、その他やむを得ない特別の理由があると認められるもの。ただし、法人運営に重大な影響があるものを除く。
- (4) 設備資金の借入に係る契約であって予算の範囲内のもの。
- (5) 建設工事請負や物品納入等の契約のうち次のような軽微なもの。ただし、契約の予定価格が経理規程第75条第1項で定める額以上のものを除く。
 - ア 日常的に消費する給食材料、消耗品等の日々の購入
 - イ 施設設備の保守管理、物品の修理等
 - ウ 緊急を要する物品の購入等
- (6) 基本財産以外の固定資産の取得及び改良等のための支出並びにこれらの処分。ただし、法人運営に重大な影響があるものを除く。
- (7) 損傷その他の理由により不要となった物品又は修理を加えても使用に耐えないと認められる物品の売却又は廃棄。ただし、法人運営に重大な影響がある固定資産を除く。
- (8) 予算上の予備費の支出。
- (9) 入所者・利用者の日常の処遇に関すること。
- (10) 入所者の預り金の日常の管理に関すること。
- (11) 寄付金の受入れに関する決定。ただし、法人運営に重大な影響があるものを除く。
- (12) その他法人業務に関する重要事項を除く日常の軽微な業務。

2 理事長は、前項の規定により専決した事務について、最近の理事会に報告しなければならない。

附 則

この細則は、平成 10 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 19 年 12 月 27 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

社会福祉法人栗駒峰寿会 役員等報酬規程

(目的)

第1条 この規程は、社会福祉法人栗駒峰寿会（以下「法人」という。）定款第11条第3項の規程に基づき、役員等の報酬等を定めることを目的とする。

(用語の意義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 役員等とは、法人の定款により定められた理事長、理事及び監事並びに評議員をいう。

(報酬)

第3条 役員等に対する報酬等の額は、次の区分に応じて定めるものとする。

| | 報酬単位 | 報酬額 |
|-----|------|----------|
| 理事長 | 月額 | 100,000円 |
| 理事 | 月額 | 0円 |
| 監事 | 月額 | 0円 |
| 評議員 | 月額 | 0円 |

(2) 評議員の報酬は、各年度の総額が140,000円を超えない範囲とする。

(報酬等の支給方法)

第4条 役員等に対する報酬等の支給時期は、毎月21日とする。ただし、その日が土曜日、日曜日、祝日に当たるときは、その前日とする。

(報酬等の日割り計算)

第5条 新たに役員等に就任した者には、その日から報酬を支給する。

2 役員等が退任し、又は解任された場合は、前日までの報酬を支給する。

3 月の中途における報酬額については、その月の総日数から土曜日、日曜日、祝日の日数を差し引いた日数を基礎として日割りによって計算する。

(端数の処理)

第6条 日割り計算により、金額に1円未満の端数が生じたときには、これを切り捨てる。

(公表)

第7条 当法人は、この規程をもって、社会福祉法第59条の2第1項2号に定める報酬等の支給の基準として公表する。

(改廃)

第8条 本規程は、評議員会の議決を経て、改廃することができる。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

社会福祉法人栗駒峰寿会 役員等費用弁償規程

(目的)

第1条 この規程は、社会福祉法人栗駒峰寿会（以下「法人」という。）の役員等及び評議員選任・解任委員が法人の業務を執行するため要した費用を弁償するため必要な事項を定めることを目的とする。

(用語の意義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 役員等とは、法人の定款により定められた理事長、理事及び監事並びに評議員をいう。
- (2) 費用弁償とは、法人における理事会、評議員会及び監事会並びに評議員選任・解任委員会（以下「会議」という。）に出席した場合における出席旅費並びに法人の業務遂行のため出張した場合の出張旅費をいう。

(費用弁償の支給)

第3条 役員等及び評議員選任・解任委員が法人に関する会議及び業務の為に出席した場合には、1日につき7,000円を支給する。但し、報酬等の支給がある役員等及び施設長等の場合は、支給しない。

2 役員等及び評議員選任・解任委員が理事長の指示又は理事会の委任を受け出張した場合には、旅費を支給する。

(旅費の準用)

第4条 この規程で定めるもののほか、旅費の支給に関しては、法人の職員旅費規程を準用する。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成9年12月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。